2017年11月号「vol.89」◎編集：新井絹世　横浜市磯子区丸山2-10-6　◎電話：045-751-5250 ◎FAX：045-751-7600

県議会議員

あらい絹世の 磯っ子レポート

県政をもっと身近に

http://www.araikinuyo.jp

アライグマの防除重点に推進
神奈川県の特定外来生物対策

日本国内では今年夏、南米原産の毒アリ「ヒアリ」が各地で相次いで発見されて大きな話題を呼び、横浜港の大黒ふ頭では10月にも死骸が見つかっています。そしてグローバル化が進む中で外来生物の問題も関心を集め、国や都道府県などで対策に取り組んでいます。外来種は「もともとその地域にいなかったのに、人間の活動によって他の地域から入ってきた生物」を指し、日本では分かっているだけで約2000種に上るといわれています。牧草として外国から入ってきたシロツメクサ、子どもに人気のアメリカザリガニなどすっかりなじみになったものもありますが、「人の命や生態系、農林水産業に被害を及ぼす」とされる特定外来生物は「入れない」「捨てない」「拡げない」の原則を基にした対策が進められています。

これらは「毒がある」「在来種のすみかを奪う」「農水産物を食べたり、田畑を荒らしたりする」「「病気や微生物などを持ち込む恐れがある」など有害で駆除対象になっています。アライグマ、ツマアカスズメバチ、セアカゴケグモ、北米原産の魚・ブルーギル、カミツキガメなどがあります。神奈川県の特定外来生物への施策は自然環境保全課で取り組んでおり、県のパソコンホームページにそのコーナーを設けて市民に情報提供するなどしています。例えば「県内で繁殖する特定外来生物」と指定されている植物は7種類。「アレチウリ」（全国の河原や林縁で大繁殖し、在来植物と競争して駆逐している。飼料畑でも大発生し、農業被害が生じている）などで、これらの生育環境、生態系などへの影響、防除、ゴミとしての出し方などが紹介されています。

動物ではアライグマとタイワンリスの2種を特定外来生物にした取り組みが行われていますが、特に感染症の恐れ、人家などの天井裏に入り壊したり汚したりする、畑の野菜や果物を食べてしまうなど被害の大きいアライグマは2006年度以降、3次にわたり防除実施計画を立てて取り組んでいます。アライグマは北米からペットとして持ち込まれてもので、県内では1998年ごろから被害が発生。県では第1次（2006～2010）、第2次（2011～2015）に続き、昨年2016年度から第3次の防除実施計画に基づいた対策を進めています。第2次計画の中で毎年、1000頭を超えるアライグマを捕獲。横須賀三浦地域では生息密度の減少がみられますが全体として分布域の拡大傾向もみられることから、第3次でも目標を引き続き「生息分布域の縮小」「個体数の減少」に置いての取り組みが行われています。ペット飼育にしても「私たち一人ひとりが初めによく考えて行うことがより必要な時代」になってきたように思われます。

コレが言いたい！

県内には、動物・植物を含め外来生物は多く生息しています。特に、特定外来生物を増やさないためにも、県内にどの様な特定外来生物が繁殖しているか周知する必要があります。神奈川県でも啓発活動の一環として、昨年より特定外来生物に関するHPを立ち上げました。そのHPも未だ不十分な点もあるので、順次見やすいものに修正を加える必要があります。

今月のひと言

11月11日（土）から17日（金）は「税を考える週間」です。税を知るだけでなく税の仕組みや目的を考えてもらい、税に対する理解を深めて頂くことを目的としており、県ではポスターやホームページによる広報活動を行っています。また、税務協力団体による「中学生の税についての作文」や「税の標語」の表彰式なども行われます。

磯子 あれ？これ？

中期の根岸湾埋め立て

横浜市の埋め立て計画は、昭和16（1941）年に臨海工業地帯の造成を目的として立案されました。しかしながら、太平洋戦争の激化によってこの計画は、実現しませんでした。

そして、終戦と米軍による接収の時期を過ぎて、昭和26（1951）年に再び根岸湾の埋め立て計画が立案されました。この年の横浜市政概要には、「根岸湾の約150万坪を埋め立て、第二港ならびに航空港を立案中」とあります。また2年後の昭和28（1953）年の概要には、「工業用地とは用途が異なるが横浜港の埠頭は、老朽化のため大改修工事の時期にきている。根岸湾を代替えとして新桟橋を計画し、併せて風光明媚な根岸地先を埋め立て、外国人の憩いの場とし、観光ホテル、小型飛行場、国際遊戯場の他、高級住宅地を造成して国際観光基地とたらしめ、外貨獲得の一助にせんとするものである」と書かれています。

ちょうどこの時期は、戦後の復興に全力を注いでいた頃で、根岸湾地域の埋め立て計画は観光立市を目指していたことが伺えますが、昭和30年代になると当初の観光立市的な考えから工業立市的な考え方に変わっていきます。

参考資料：磯子の史話

活動報告

10月21日（土）、22日（日）赤レンガ倉庫広場前で開催予定でした「みんなあつまれ2017」は、台風21号の影響で21日のみの開催となりました。

10月13日（金）本会議で賛成討論を行いました。

あらい絹世 プロフィール

- 昭和43年3月8日　横浜市磯子区生まれ
- 横浜雙葉小・中・高等学校卒業
- 明治学院大学社会学部社会福祉学科卒業
- 日商岩井㈱ / ㈱メタルワン
- 自民党かながわ政治大学12期生
- 平成27年4月 県議会議員2期目当選
- 環境農政常任委員会委員
- 社会福祉審議会委員
- 社会問題対策特別委員会副委員長
- 政務調査会副会長

あらい絹世に対するご意見・ご感想・ご要望・メッセージをお寄せ下さい・・・・・・・・・・・ FAX 045-751-7600